

健康栄養学部健康栄養学科設置構想の概略

(1) 西九州大学における学部構成 — 経緯と発展 —

西九州大学は佐賀県唯一の4年制私立大学であるが、中でも、健康福祉学部健康栄養学科は、昭和43年に佐賀家政大学家政学部家政学科として創設され、昭和44年に「管理栄養士養成施設」として厚生大臣の指定を受けて以来、今日に至るまで、「高度の知識を授け、人間性の高揚を図り、専門知識と応用技術をもって社会に貢献し、世界文化の向上と人類福祉に寄与する人物を養成する」という建学の精神に基づいた教育理念のもと、一貫して管理栄養士・栄養士の養成校として発展・進歩してきた。その経緯は以下の通りである。

昭和49年には、家政学部社会福祉学科が増設され、大学の名称も西九州大学に変更された。さらに昭和52年、本学科の教育目標・目的をより明確に表すために家政学部家政学科を家政学部食物栄養学科に名称変更し、平成12年には「食物栄養学科」を「健康栄養学科」に名称変更して、翌年の平成13年に学部の名称についても健康福祉学部に変更した。

家政学部を健康福祉学部に変更した背景には、平成11年に大学院健康福祉学研究所修士課程が設置されたことが関係している。健康福祉学研究所は、人びとの健康と福祉をともに増進させ、高齢や身体的ならびに精神的ハンディキャップにとまなう困難を予防し、あるいは軽減するという理念、目標を共有し、健康栄養学と社会福祉学の融合を図ることを目指して設置したものであり、その意図を学部教育にも反映させるという趣旨で学部の名称についても健康福祉学部に変更し、両学科にまたがる学部基幹科目として「健康福祉概論」を設置し、学生に「健康と福祉」を強く意識させる教育を行ってきた。

その後、平成19年にリハビリテーション学部を、平成21年には子ども学部を設置し、現在では、西九州大学は健康福祉学部（健康栄養学科、社会福祉学科）、リハビリテーション学部（リハビリテーション学科：理学療法学専攻、作業療法学専攻）、子ども学部（子ども学科）の3学部から構成されている。

今回の計画は、このような経緯をもつ3学部のうち、現行の健康福祉学部から健康栄養学科を健康栄養学部として独立させることにより、西九州大学を健康栄養学部（健康栄養学科）、健康福祉学部（社会福祉学科・スポーツ健康福祉学科）リハビリテーション学部（リハビリテーション学科：理学療法学専攻、作業療法学専攻）、子ども学部（子ども学科・心理カウンセリング学科）の4学部に変更し、より専門的な教育体制を強化することをめざす一環の第一歩となるものである。

(2) 新たな教育体制の構築 — 教育の質の向上のために —

本学における上述のような教育理念は、健康栄養学科の卒業生の多くが病院等の医療施設だけでなく、介護老人保健施設や介護老人福祉施設といった介護施設、保育所等の児童福祉施設など、保健、医療、福祉のあらゆる分野に就職し、一方、社会福祉学科の卒業生も栄養や健康に対する関心を強めるというかたちで具現化されてきた。しかしながら、近年、栄養学分野における知識や技術の発展は著しく、社会が栄養の専門職としての管理栄養士に求める能力も複雑かつ高度化してきた。

その一方において、大学進学者の減少、偏差値レベルにおける学生の質の変化は否定しがたく、西九州大学においても初学者教育の導入、個別的指導体制の強化、キャリアプランニング教育が求められる状況にあり、おのずと国家資格である管理栄養士や社会福祉士等の専門職資格の取得についても通常の授業に関して、カリキュラム編成の検討や教授法の改善工夫といった強化はもちろんであるが、それだけでは補うことができず、補習授業、国家試験対策特別授業、その他の配慮を必要とする状況にある。

このため、西九州大学においては、平成 28 年度に本学の母体である学校法人永原学園が創立 70 周年という節目の年を迎える、この機会に、健康栄養学と社会福祉学の融合による新しい学問領域の構築、それによる新しい専門的実践領域の開発という課題は大学院修士課程の整備拡充により追究することとし、学部レベルにおいては、むしろ現行の健康福祉学部を、名目的にも実質的にも、健康栄養学部と新・健康福祉学部に分割・改組することで、それぞれの学部がそれぞれに直面させられている課題に対応できる方向を追究したほうが、それぞれの学部学科がより発展する道が開け、学園としても将来に明るい展望が志向できるであろうとの結論に達した。

(3) 健康栄養学部健康栄養学科の教育研究上の理念・目標

1) 教育研究上の目的

健康栄養学部は、従来の健康福祉学部健康栄養学科の教育研究上の目的を引き継ぎながらもさらに発展させて、医療人としての倫理観と、「優しさ」と「思いやる心」をもった人間性と、主体的に考える力を備え、全ての人を対象に、栄養・食生活を通して生活の質の向上や豊かな生活の構築に貢献できる人物を育成することを目的としている。その中で、新しい健康栄養学科では、健康と栄養を科学的に思考し、栄養科学の実践的技能を身につけ、対象者や対象集団に合わせた栄養ケア活動を展開できる専門職を育成することを教育研究上の理念・目標としている（参照：西九州大学学則）。それ故、本学科の教育がめざす人間像・人材像は以下の通りである。

- ① すべての人を対象に、栄養・食生活を通して生活の質の向上や豊かな生活の構築に貢献できる人材
- ② 健康と栄養を科学的に思考し、栄養科学の実践的技能を身につけ、対象者や対象集団に合わせた栄養ケア活動を実践できる人材
- ③ 医療人としての倫理観と、「優しさ」と「思いやる心」を持った人間性と、主体的

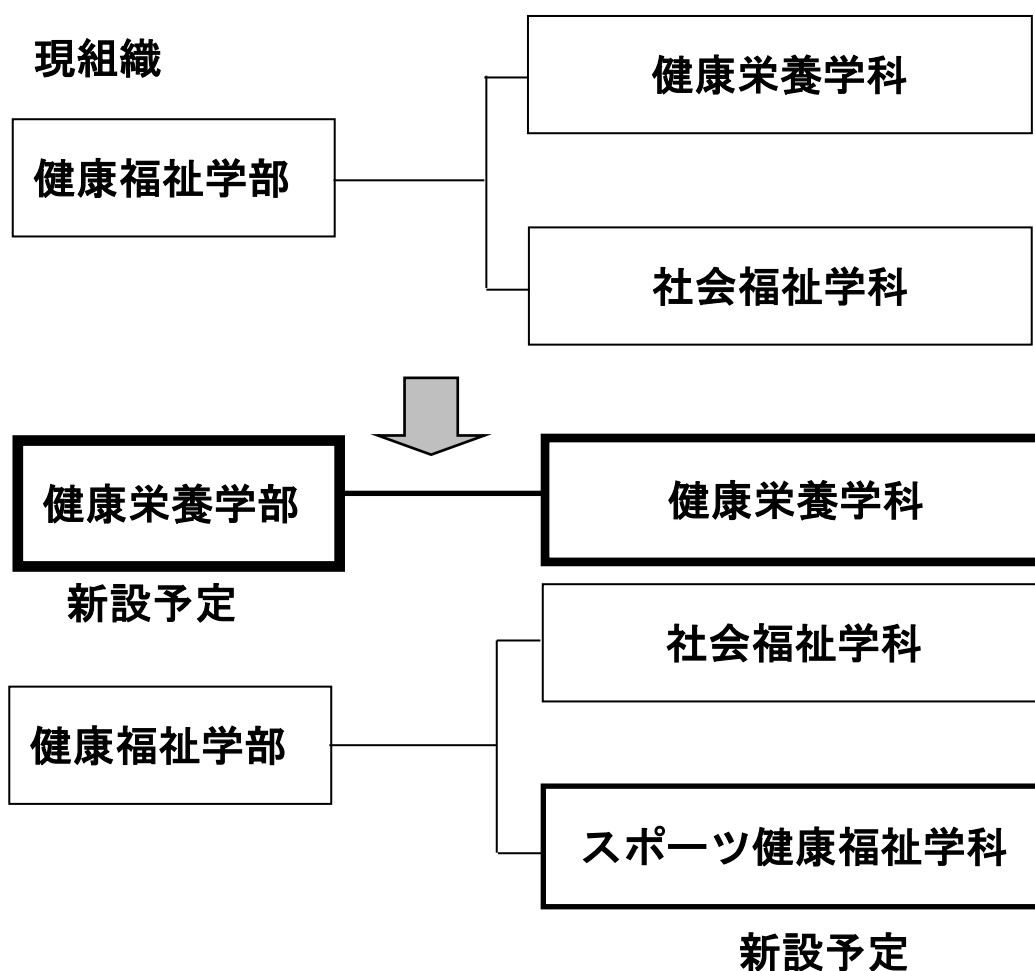
に考える力を備えた社会人

これをふまえて、以下の4点を教育上の到達目標とする。

- ① 公衆衛生学、生理学、生化学、医学、食品学、調理学など専門にかかわる基礎科目の知識を身に付けている
- ② 人や地域社会で生じる栄養・食生活の課題を明確にし、解決策を考え、提案し、また実行することができる
- ③ 医療や福祉の場面で、栄養ケア・マネジメントを実践することができる
- ④ 人や地域社会で生じる出来事や課題に関して関心を持ち、栄養・食生活の改善を通じて、人々の健康増進に貢献するという意欲を持つことができる

本学科は、上述の教育研究上の目的に沿って教育を行い、大学設置基準に基づき、本学が定める履修要件に沿って124単位以上を修得し、上記の観点別能力・到達目標を身につけた者に卒業を認定し、学位（学士（健康栄養学））を授与する。

健康栄養学部の設置に係る学部分離の移行図



2) 中心的な学問分野

上記の理念及び目的から、健康栄養学部健康栄養学科の教育研究上における中心的な学問分野は広い意味での栄養科学分野であり、特に専門職養成の立場から実践力の養成と実践の評価を行う実学を重視する。さらに、このような実学を支える基礎的学問分野である生物学、生理学、化学、基礎医学及びそれらの学際的学問分野を周辺に配置する分野構成となっている。これらの学際的学問分野で得られる知見を実学に繋げることによって、本学科の教育研究上の目的を達成することができるだけでなく、広い意味での栄養科学分野をさらに発展・進歩させていくことができると考える。

3) 学部学科の特色

平成 17 年 5 月 1 日付中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」は、21 世紀の「知識基盤社会」における高等教育の全体像を提示し、その中核となる大学に対して、それぞれの大学の教育理念や社会で果たそうとする役割の明確化を要請している。西九州大学においては、昭和 43 年の建学以来、「あすなろう」精神のもとで、常に時代の要請を敏感に受け止め、それに応える教育研究の展開に努めている。昭和 43 年より開始した栄養士管理栄養士の養成に加え、昭和 49 年に九州地方で最初の社会福祉学科を創設して、障害者福祉や高齢者福祉の分野で活躍する人材の育成を開始したこと、また平成 11 年に教育方法の特例を実施する大学院健康福祉学研究科を開設し、生涯学習社会の要請に応えるリカレント教育に着手したこと、さらに平成 19 年にはリハビリテーション学部の新設によって、地域における保健医療福祉システムを支える人材養成を開始、平成 21 年には子ども学部の新設により地域における 21 世紀の日本を担う子どもたちの保育・教育に携わる人材育成を開始したことは、その具体例である。

このように、本学では、高度専門職業人養成に力を注いできたが、今回の改組は本学の中で設立のきっかけとなった管理栄養士の養成をより強化しようというものである。栄養士・管理栄養士のニーズも時代とともに変化し、医療・福祉・介護に携わる専門職業人に対して求められる資質能力は、社会の栄養問題に対応して多様化し、いっそう高度なものとなっている。それと同時に、国際化、情報化、急速な技術革新の進歩、少子高齢化の進展など近年の急速な社会変化は、栄養学の実践者に対して、これらの変化に対応できる新たな能力を求めている。

以上のことをふまえて、健康栄養学部健康栄養学科は、前述した「すべての人を対象に、栄養・食生活を通して生活の質の向上や豊かな生活の構築に貢献できる人材の養成」という教育目標のもとで、地域の人々に対して適切な栄養情報の提供やケアの実際を担当できる高度専門職業人を養成することを教育研究上の特色とする。すなわち、公衆衛生学、基礎医学、食品学を根幹に据えつつ、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理学など、既設学部で蓄積された教育研究上の成果を活用することで、本学の特色を生かし

た教育研究活動が展開できると考える。

また、本学科の教育研究活動は学内に留まることなく、「地（知）の拠点」として地域と連携して展開・実施することを計画している。すなわち、専門職業人のスキルアップを目的とした生涯学習の機会を提供し、地域住民を対象とした公開講座等の開催機会を設けて栄養ケアを直接地域に還元するとともに、地域活性化に貢献することも本学部・学科の教育研究活動の中心的課題の一つであることから、学生を積極的に地域連携活動に参加させる。

健康栄養学部健康栄養学科は、健康と栄養を科学的に思考し、栄養科学の実践的技能を身につけさせ、すべての人を対象に、栄養・食生活を通して生活の質の向上や豊かな生活の構築に貢献できる人材、特に管理栄養士・栄養士の養成を教育研究上の目的としている。